

すべてを

さがみはらの

明日のために。

『選挙に行きたくなる政治』を目指す、という情熱ひとつで30歳のときに初めて選挙に立候補しました。県議を6期務めた親父の地盤を避け、業界・団体・組合等の組織支援を一切求めず、シガラミ政治からの脱却を訴えました。しかしながら親父の地盤を継がないとなれば、後援会も無く知人もごく少数。各方面の方から無謀な戦いだと諷められました。それでもこの地に新しい政治を造りたいと思う意思が変ることはありませんでした。

何の保証もないのに私を信じてついて来てくれた青年と二人で、自転車にスピーカーを唯一の武器として戦いに挑んだ前回の県議選。『選挙で政治を変えられる！行かなきゃ政治は変わらない。』だから『選挙に行きたくなる政治を目指す。』来る日も来る日も街頭で訴え続けました。市民皆様に政治を身近に感じていただくことが、政治の原点との思いからです。結果は次点。しかしながら、『徒手空拳』何も持たずに古い政治に挑戦した私たちに17,264人の市民(中央区)の皆さんが迎えて下さいました。この選挙戦を通して人の情けの尊さ・ありがたさを痛感いたしました。

さがみはらに新しい政治を創りたい！

あれから3年を経過した今も、『身近な政治を目指す』という気持ちは変わりません。愚直に街頭に立ち続けています。『新しい政治』は、ひと時(選挙の時)のパフォーマンスで創れるものではなく、地道な活動の積み重ねなくして成し得ないと思うからです。政治的な如何なる希望も、また政治的な如何なる改革も、私たちの努力と勇気なくしては達成できません。おかげ様で私の日々の行動に対し、賛同する多くの人の輪が拡がりつつあります。どうぞ私と共に、『新しい政治創り』に参画ください。

さがみはら

には、賑わいの創出をスローガンに大開発や箱物建設の計画が目白押しです。

「美術館やコンベンションホール、横浜線の地下化」を含む「広域交流拠点整備計画」です。一見、聞こえの良い計画ですが、これらの費用は、当然みなさんの税金になります。何かを造ろうとすれば、そこには皆さんの税金が使われ、すべて私たち市民が負担することになります。現在、さがみはらの財政は火の車であり、市民負担と借金は増え続ける一方です。地方自治法には『住民の安全、健康及び福祉の保持』は、自治体の責任の第一と謳われています。少子化・高齢化や本格的な人口減少社会に直面した今、さがみはらが果たす責任は、莫大な税金を大開発や箱物に向けるのではなく、明日のさがみはらを担う子供の教育や子育て支援、福祉に重点を置いた人づくりに向けられるものでなければなりません。

そのためにも『新しい政治創り』に挑戦して参ります。

えのもと揚助のプロフィール(昭和59年6月2日生、33歳) 相模原市立相模が丘中卒、東海大学付属相模高校卒  
平成19年に国際武道大学卒。(中学・高校・大学では野球部に所属し、青春の情熱を注ぐ。)その後、神奈川県議会議長秘書を経て衆議院議員秘書。平成27年神奈川県議会議員選挙に出馬17, 264票を獲得するも惜敗。